

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**《現状》**

○学校…基礎的・基本的事項の徹底を重視し、学力の向上に努めている。特色ある教育活動として、伝統的文化活動を積極的に進めている。

○児童…明るく素直な児童が多く、地域・PTA行事にも意欲的に参加している。家庭と連携しながら、基本的生活習慣の定着に努めている。

○教師…日々の教育活動に熱心に取り組んでいる。若手教員が多いため、校内OJTを充実させ、研究・研修を通して、指導力の向上を図っている。

○地域・保護者…創立115年の伝統が、地域の大きな力に支えられている。PTA活動も活発であり、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、各種ボランティアなど、学校教育への理解が厚く、協力的である。

《成果と課題》

○学力向上「授業力向上校」の指定を受け、学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実がなお必要である。日々の授業改善と、教師の指導力の向上が求められる。小中連携による合同研究を進める中で、教科の系統性や指導法の共通理解を深めてきた。体験的活動の一層の充実を通して、基礎的事項を児童が主体的に活用する学習を目指していきたい。

○健康な心身の育成

挨拶を重視して、あたたかな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てていきたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には全校で共通理解を図りながら、組織的に対応するよう努めた。運動好きの児童が多く、年間を通じた体育的活動や区のスポーツ大会での活躍も見られたが、体力テストの結果は全校的に低い。運動経験の二極化に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。

○保護者・地域との連携

PTAや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。学校便りの形式を変えて学校からの情報の発信を重視したが、学校評価アンケートの回収率には反映しなかった。評価結果の返し方にも工夫をしていく。地域内の幼稚園・保育園とは、積極的な交流を行うことができた。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要重点的な取組事項－1 学力向上

目標実現に向けた取組みとして、「基礎的な内容の理解の徹底」「小中連携による合同研究」「教員の指導力向上」「体験的活動の充実」をあげ、学力の向上を目指した。

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

目標実現に向けた取組みとして、「挨拶の励行」「いじめの根絶・不登校の解消」「体育的活動の充実」をあげ、健康な心身の育成を目指した。

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

目標実現に向けた取組みとして、「保護者による年間2回の学校評価の実施」「PTA・地域行事等への教職員の参加」「幼稚園・保育園との連携」「創立115周年に関連した地域との連携」「各種ボランティアの拡充」をあげ、保護者や地域との連携を目指した。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上

「授業力向上校」の指定を受け、学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実がなお必要である。学力定着指導員による若手教員への指導や校内研究の充実を図ってきたが、日々の授業改善と、教師の指導力の向上がさらに求められる。新たに３校となった小中連携による合同研究を進める中で、児童・生徒の発達段階、教科の系統性や指導法の共通理解を深めてきた。国際理解や日本の伝統文化に触れる活動、地域学習等の体験的活動の一層の充実を通して、基礎的事項を活用し、児童が主体的に学んでいく学習を目指していきたい。

重点的な取組事項－２ 健康な心身の育成

挨拶を重視して、あたたかな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てていきたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には全校で共通理解を図りながら、組織的に対応するよう努めた。運動好きの児童が多く、年間を通した体育的活動や区のスポーツ大会での活躍も見られたが、体力テストの結果は、男子は向上したものの、女子は全般的に低い。運動経験の二極化や男女の遊びの形態の違い等に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。

重点的な取組事項－３ 家庭・地域との連携

P T Aや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。創立１１５周年に関連した活動の中で、地域の方のお話を伺ったり、学年に応じた地域学習を行ったりして、地域との連携を深めることができた。学校評価アンケートの実施方法を改善し、回収率が向上した。地域内の幼稚園・保育園とも、積極的な交流を行うことができた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

年間を通した本校の教育活動に対してのご理解・ご協力に深く感謝いたします。子供たちの安全で安定した学校生活は、家庭と地域の支えなくしては成り立ちません。P T A・開かれた学校づくり協議会・放課後子ども教室・図書ボランティア・学習支援ボランティア等、様々な保護者・地域の皆様のおかげで、子供たちは毎日健やかに学び、成長してきました。

今年度は創立１１５周年の節目の年として、運動会や音楽会等の学校行事においても記念の意識づけを行い、家庭・地域への発信を行ってきました。また子供たちは、学年に応じた形で、学校のこと、地域のことをより深く知るための学習に取り組みました。その集大成が代表委員会主体に行なわれた「周年記念集会」であり、学習成果の発表や地域の方のお話等を通して、子供たちは瀏江小のことが、瀏江の町がより一層好きになりました。

そうした子供たちのありのままの姿を、学校行事や学校公開にてご覧いただき、学校通信やホームページ等によってお知らせしてきました。次年度入学予定者の学校選択において、４割を超える学区域外からの希望者を得ることができたのも、その成果の一つと思われます。

また、子供たちが学校生活のルールを意識し、決まりを守ることの大切さを学んでいくためには、家庭や地域のご協力がどうしても必要です。たとえば今年度は登校時刻の徹底に取り組んできました。決められた登校時刻より早く登校してくる子が増えてきたため、通学路の安全を確保し、生活リズムを整える意味からも、朝家を出る時刻の確認を全家庭にお願いしました。「早く学校へ行きたい」という子供の気持ちを大切にし、各ご家庭の事情も受け止めさせていただきながら、呼びかけを続けました。家庭・地域のご理解とご協力に改めて感謝いたします。

今後も保護者・地域の皆様から愛され、誇りとされる学校づくりをさらに目指して努力してまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

2. 平成28年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全校で、基礎的・基本的内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組が計画的になされていること。	区学力調査 通過率国語78%、算数80%	・4月実施調査では、通過率 国語68.5%、算数73.5%。どちらも達成基準を下回った。	・次年度4月の学力調査に向けて、本校児童が苦手とする内容の克服を図る。個への対応、全校的な学力向上への取組をさらに重点化していく。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的な内容の理解の徹底	区学力調査、年度末の目標通過率90%以上	・習熟度別指導の徹底 基礎基本の時間「けやき教室」年間30回・学習支援ボランティアの活用 ・パワーアップタイムの充実 国語・算数・読書(週3回20分間) ・放課後けやき教室の充実 個別指導による補充学習(週1～2回) ・そだち指導員制度の効果的実施 学力ポートフォリオの活用 ・夏季休業中の補充学習(10日間) ・漢字検定への取組(年2回)	基礎的・基本的な内容の定着を重視した授業改善を進めた。また、パワーアップタイムやけやき教室のさらなる充実に努めてきた。1月に実施した再調査では、全校の目標値通過率平均が、88.6%となり、成果が見えてきているが、達成基準にはやや届かなかった。指導を継続して、次年度の調査に結果を出したい。	授業規律を重視し、指導法や教材の工夫により、児童の学習意欲を引き出していく。SP表の分析やポートフォリオの活用を通して、さらに個に応じた指導を充実させていく。学習ボランティアの協力を得て、けやき教室の習熟別指導の徹底を図る。	○
小中連携による合同研究	小2校・中1校による合同研究会を8回以上実施	・合同学習指導案作成研究会(9分科会別・3回以上)。 ・合同研究授業(9分科会別・3回)。 ・相互公開授業・全体協議会(2回以上)	足立区立湊江中学校・湊江第一小学校との合同研究会では、教科別に8分科会に分かれて研究を進めた。中学校1回、小学校各1回、合計3回の研究授業を行い、事前の合同指導案検討会をそれぞれ2回実施した。	小中合同の指導案検討に、各教科毎の取組の深まりが見られた。さらに児童・生徒の生活指導上の相互理解も加えながら、9年間を見通した指導の改善を図っていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教員の指導力向上	授業研究・研修会を15回以上実施	・講師を招聘しての校内研究授業(8回) ・年次研修への全員参加(1～4年次) ・若手研修会(経験6年目以下) ・足立スタンダード、活用力向上研修会 ・区小研への全員参加	主に本校に配置された学力定着指導員を講師として、各学年・専科による校内研究授業を8回実施した。指導員には単元を通して助言を受けた。研究授業の事前授業にも多くの教員が自主的に参加した。	主に国語を通して全教員が授業の基本について学ぶことができた。さらに様々な教科の授業研究を通して、より指導力の向上を図っていく。	○
体験的活動の充実	各学年2回以上、学校全体3回以上実施	・国際理解教育、キャリア教育 ・外部人材の活用・外部機関との連携 ・伝統的文化に触れる活動 (落語・将棋・百人一首・狂言等)	オリンピック・パラリンピック関連の活動や、伝統文化教育推進校としての、落語・将棋・百人一首・俳句・JET青年との交流活動等、20回以上の講座を開催した。周年記念集会にて、地域の方からの講話を全児童対象に実施した。	オリパラ教育・伝統文化教育推進校の指定は来年度も継続する。PTAや開かれた学校づくり協議会の協力を得ながら、特色ある教育活動として位置づけ継続していきたい。	◎

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め、尊重する態度、あたたかな人間関係が、各学級を基盤に定着していること。年間を通じた体力向上へ向けての取組が積極的になされていること。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価90%以上。都体力調査、全学年男女都平均以上か同程度。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価98.7% 都体力調査、都平均以上か同程度の学年が、6学年中男子5学年、女子1学年。	全体的に児童は明るく生活しているが、友達同士のトラブルも多く、思いやりの心を育てる根気強い指導が必要である。体力面でも、運動経験の二極化が見られ、基礎体力の全校的な底上げが課題となっている。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価90%以上	・登校時や来校者への挨拶の徹底。 ・家庭・地域への働きかけ	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価76.7%	挨拶とともに、返事や言葉遣いを年間を通じた重点的な指導事項としていく。	△
いじめの根絶・不登校の解消	全校体制としての課題の早期発見・組織的対応	・いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 ・スクールカウンセラー・関連機関との連携	教職員による生活指導上の情報交換を週に1回行い、対応の共通理解を図った。いじめ行為の根絶、不登校傾向の解消に完全には至らなかったが、校内	担任が抱え込むことのないよう、SCやSSW、外部関連機関との連携を強め、校内委員会を核とした全校	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
			委員会は毎週行い、活発に機能させることができた。	体制をより活性化させていく。	
体育的活動の充実	業間における体力向上への全校的取組、年間4回以上	・長縄・短縄・マラソン月間 ・校庭遊びの奨励	長縄・短縄と持久走の体力向上週間を、計4回実施した。特に、長縄は、各学級が競って取り組み、2学級が区の長縄チャレンジ表彰を受けた。	校庭遊びをより奨励し、体育的活動との関連を図りながら、各運動の日常化を進めていく。	○

重点的な取組事項－3 家庭・地域との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識がもたれていること。	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 76.5%	「連携について」アンケート回答の「わからない」が10%近くある。情報の発信が重要である。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	・夏休み前・冬休み前の年2回アンケートの実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善	学校評価アンケート回収率 前期70.5% 後期71.0% 平均70.8%	マークシート方式が効果的だった。結果の生かし方を検討する。	○
P T A・地域行事等への教職員の参加・協力	全教職員が年間2回以上いずれかの行事に参加	・P T Aまつり、地域行事、開かれた学校づくり協議会活動等への計画的な参加	P T Aまつり、スポーツ、地区対、町会等の行事に、教職員のほぼ全員が2回以上参加した。	教職員の意識をより高めるとともに、無理なく参加できる体制づくりをする。	○
幼稚園・保育園との連携	2幼稚園・1保育園との連携活動の推進	・公立保育園への全員参観、交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施	夏季休業中の全員参観、運動会・音楽会の練習見学、交流活動、教員の交流研修等を予定どおり実施できた。	連携保育園が民託化されたが、引き続き連携を維持できた。継続していきたい。	○
創立115周年に関連した地域との連携	各学年に応じた「地域で、地域を、地域から」学ぶ学習の実施	・地域をフィールドにした学習 ・地域人材によるゲストティーチャー ・郷土資料室の整備・活用	周年記念集会での発表へ向けた地域調べ等の学習を各学年毎に行った。ゲストティーチャーとしての協力も得た。郷土資料室を整備し、保護者・地域へ公開した。	地域学習の成果を一過性のものとせず、人材の活用も含めて学校の財産としていく。	◎
各種ボランティアの拡充	図書ボランティア・学習支援ボランティア	・学校便り・H P・保護者会等での発信 ・地域への依頼	各ボランティアとも大幅な増員には至らなかったが、活	活動の実際の様子を、学校公開等を通し	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	ア・将棋ボランティアの増員		動内容は定着し、充実して行われた。	て、より広く発信していく。	

3. 学校活動全般について

○学力の向上

区の「授業力向上校」の指定を受け、児童の基礎的・基本的な学力の定着を目指してきた。発達段階に応じて身に付けたい学力をしっかりと習得し、活用していくことができるよう、学校を真の『学舎（まなびや）』としていく。

○豊かな心とあたたかな人間関係の育成

人間関係の基本である挨拶について、年間を通して指導してきた。またいじめについては、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期解決に努めてきた。協力や思いやりの心が、学校全体として育ってきたが、挨拶の声もまだ小さく、日常的な児童同士のトラブルや乱暴な言葉遣い、廊下を走り回る姿などもまだ見られる。学級を基盤とした規律の確立、学校生活のルールの徹底、全校児童を常に全教職員で見守っていく体制をさらに継続していく。

○特色ある教育活動の実施

日本の伝統的文化に触れる機会を積極的に設けた。将棋教室（土曜教室・水曜道場・サマー教室）、百人一首教室、落語教室、俳句（一茶まつり）などを、年間を通して実施した。中でも、一茶まつりでは、個人・団体共に成果を示し、将棋と百人一首でも、区の大会にて好成績を得た。校内での位置づけをより明確にしていく。

○特別支援教育の推進

特別支援学級設置校として、通常学級との相互交流を活発に行った。また都と区の2名のスクールカウンセラーや関連機関と連携しながら、通常学級内における特別な配慮を要する児童への支援を行った。今年度開設の特別支援教室の有効活用を計画的に進めた。

○学校行事で伸びる力

運動会や音楽会、高学年の宿泊学習等の大きな行事に向けて、児童に明確なめあてをもたせて取り組ませた。その中で、根気強く目標へ向かっていく力や集団としての規律、協力の意識などが培われた。特に音楽会へ向けての日常からの音楽環境の整備や集会活動の改善が、具体的な成果として表われた。